

2026年 9月 28日 9月特別号
一宮市立大和中学校

第2回学校保健委員会 「いのちの授業 ～命について考える～」

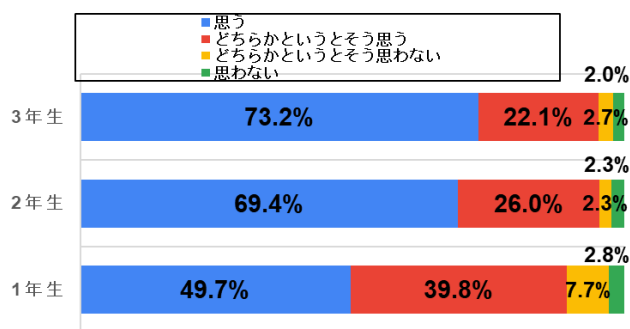
9月28日(月) 5・6時間目 13:10～15:00 **演題** 「命について考える」

講師 猟師 / 株式会社 Mui 代表取締役 農作物被害対策アドバイザー

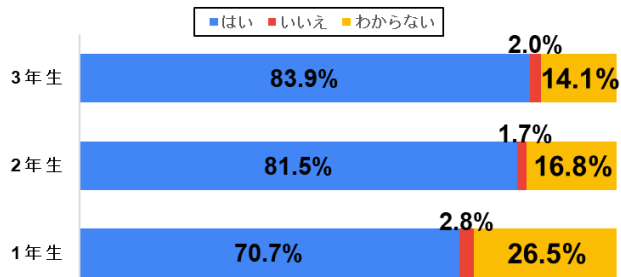
山里カフェ Mui 主宰 清水 潤子 先生

- 目的**
- ①家族と向き合う人々の取組に関心を持ち触れ合うことを通じて、自他の健康と命の大切さに気付く。
 - ②がんについて学んだことを通じて自己の在り方や生き方を考え、共に生きる社会づくりと健康な社会の実現に努める。
 - ③将来にわたって、いのちを大切にできる心を育む。

がんは身近な病気だと思いますか。



日本人の2人に1人が生涯でがんにかかり、がんは誰でもかかる可能性があると思う。



がんは、細胞の DNA が傷つき、壊れた細胞が長く時間をかけて増え続けることで起こる病気です。傷ついた DNA から発生した異常な細胞が、制御を失って腫瘍をつくり、周囲や他の場所へ広がっていきます。腫瘍は別の場所へ転移することもあります。

完全な予防法はありませんが、規則正しい生活・バランスの良い食事・適度な運動でリスクを減らせます。

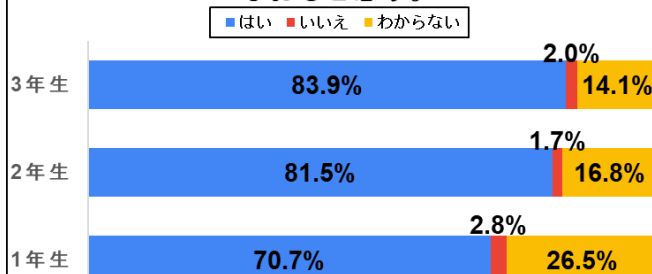
正しい知識を持ち、早期発見につなげることと、心の健康を保つことが自分のいのちを守る第一歩です。

日本人の2人に1人ががんにかかる。がんは早期発見で9割近くの人がかかる病気です。

9月4日に行った「がんについてのアンケート」の結果、学年が上がるにつれて「がんは身近な病気」「誰もがかかる可能性がある」「早期発見で治る確率が高まる」と答えた生徒の割合が増えており、がんという病気についての正しい理解が深まっていることが分かりました。

がんは決して特別な病気ではなく、誰もが自分や大切な家族の問題として向き合っていかなければなりません。早期発見によって多くの場合は治すことができる病気だからこそ、「正しく知る」ことが大切です。

がんは早期発見すれば、9割近くの人がかかると思う。





9/3(木)全学年ブラッシング指導を行いました

学校歯科医の先生、歯科衛生士の方にお越しいただき、全学年でブラッシング指導を行いました。歯の染め出しを行い、自分の歯並びや、歯の形に合った歯みがきを習得しました。毎日の歯みがきを丁寧に行い健康な歯を保ちましょう。

<1年生の生徒の感想>

鏡を見ながら歯をみがいているけれど、みがく順番やブラシをあてる向きを気にしながら磨いたことはなかったので、今後意識していきたい。また、歯みがきをした後にデンタルフロスをする習慣をつけたい。

<2年生の生徒の感想>

歯ブラシの「つま先、わき、かかと」を使い分けてみがく方法を初めて知った。歯と歯の間がみがきにくく汚れが溜まりやすいが、歯ブラシの「つま先」を使うとみがきやすかった。みがけていると思っていてもみがけていないところが意外とあった。歯は一生ものなのでこれからも大切にみがいていきたい。

<3年生の生徒の感想>

今回、正しい歯みがきの方法を教えてもらって、自分の歯並びに合ったみがき方を学ぶことができた。デンタルフロスはいつも夜やっていたが、朝も汚れがたくさんあることを知り、朝もデンタルフロスをしたと思った。また、細かく歯ブラシを動かす「コショコショみがき」もこれから行なっていこうと思う。



9/7(月)3年生いのちの学習を行いました

3年生は、いのちの学習で「性と自立」について考えました。もし、16歳で妊娠したら産む(産ませる)産まない(中絶する)かについて、4つの自立(経済・生活・精神・性)をもとに話し合い、考えを深めました。責任ある行動や、感情のコントロール、自他のいのちを大切に、思いやりをもつことの大切さを学びました。今回の学びをこれからの人生に生かしてほしいと思います。



<3年生の生徒の感想>

今回の授業を通して、責任感のある行動をとることが大切だと分かった。産む・産まないかという質問をされたときに、産まない一択だと思っていたけれど、中絶が今後、子どもを産めなくなるリスクが高くなることを知った。産んでも産まなくてもどちらにもリスクがついてきて、どちらも辛い選択だと思った。だからこそ、そのような選択にならないように、これからも自分のこと、相手のことをしっかり考えて責任をもって心と体を大切にしたい。